

飯田市 座光寺

ご ろ た

五郎田遺跡 発掘だより No.1

発掘調査が始まりました。

昨年度の確認調査で弥生時代～古代の集落跡の存在が確認された五郎田遺跡の発掘調査がはじまりました。リニア中央新幹線に伴う調査としては、飯田市内では初めての本調査となります。

4月中旬から遺跡の表土を重機で剥ぎ取る作業を始め、現在は作業員の皆さんにより、遺構を見つける検出作業を行っています。その結果、竪穴建物跡（約20軒）や掘立柱建物跡（約20軒）、土坑（約200基）などが重なった状態で見つかっています。



遺跡遠景（天竜川東岸より上郷飯沼・座光寺方面を望む）

遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡は天竜川右岸の東側に向かい緩やかに傾斜する低位段丘面に立地し、遺跡の西南には土曾川が天竜川に向かって流れています。

本遺跡は過去の調査例はありませんが、弥生時代・古代の土器散布地として知られています。

遺跡の横を流れる土曾川の対岸には、弥生時代の大集落遺跡である丹保遺跡や弥生時代の方形周溝墓が発見された橋爪遺跡の他、五郎田遺跡と同じく、主に弥生時代から古代にかけて大規模な集落が形成された堂垣外遺跡・ママ下遺跡がみられます。



五郎田遺跡周辺の遺跡（Map Fan より）

注目される恒川官衙遺跡との関係

五郎田遺跡は伊那郡衙（古代伊那郡の郡役所）と推定される国史跡の恒川官衙遺跡と同一の段丘面にあり、その関係が注目されています。

同じ段丘面に位置する堂垣外遺跡からは三彩陶器・畿内系土師器・円面硯・銅製帯金具・馬具など特殊な遺物が出土していて、地方官衙に関係する集落と想定されており、五郎田遺跡からもこのような遺物の出土が期待されます。

堂垣外遺跡からは倉庫と考えられる総柱の掘立て柱建物跡や礎石を持つ竪穴状遺構が検出されていますので、隣接する五郎田遺跡からも、総柱の掘立て柱建物跡や礎石を持つ竪穴状遺構の発見が期待されます。

五郎田遺跡は、こうした恒川官衙遺跡や堂垣外遺跡とともに、伊那郡衙を支える有力集落の一つかもしれません。

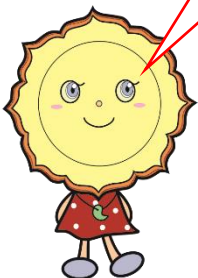


遺跡近景



作業風景（遺構の検出作業）

発掘は始まったばかりです、これから、どんなものが出土するか楽しみです。乞うご期待！



飯田市 五郎田遺跡 発掘だより No.1
担当者：藤原直人 鈴木時夫 遠藤恵実子
電話：080-9560-1354
長野県埋蔵文化財センター飯田支所
住所：飯田市北方297-5
電話：0265-49-0736
発行 令和3（2021）年6月2日
HP：<http://naganomaibun.or.jp/>